

II 研究計画

「単一民族国家」としての日本社会は、外国人に対して、常に「同化」を求め、「異分子」を排除する傾向を持ち続けてきた。この構図は、社会問題となった「学校でのいじめ」の主要な原因の一つと指摘されている。

近年、経済的発展の後押しを受け、外国人の受け入れが急増してきたが、このところの不況も相まって、さまざまな問題が噴出してきている。

現在日本社会が受け入れている外国人の数あるいは国籍数はこれまでに経験したことがない数にのぼり、またその家族も現に日本で生活し、日本社会にむかって発言し、行動を取り始めている。そして、不況による「失業問題」、さらには「外国人による犯罪」の増加、「文化摩擦」や「外国人（外国籍）に対するいじめや嫌がらせ」などの報告の増大は、「平和で安定した日本社会」がこれまで経験したことの無い新たな状況を生み出しつつある。

大人社会の混乱や変化は、当然の帰結として、その子ども社会にも影響を及ぼすことが予測される。学校における「いじめや差別」の発生、「文化摩擦」さらには「日本社会への不満」は、問題行動の原因ともなる。これまた、われわれがかつて一度も経験したことがない状況である。ところが、われわれはそれに対して有効な解決策（ノウハウ）を持ち合わせていないのである。

首都圏やその周辺部を中心として考えると、外国人特に南米からの移住者やその家族、インドシナ難民さらには中国帰国者とその家族の数が増え、今後の動向が特に注目される場所である。さらに今まであまり注目されなかった子ども世代の動向も気になる場所である。

本研究では、首都圏で急増している外国人定住者や中国帰国者およびその子どもの実態を調査し、彼らが抱えている問題や日本社会への適応の状況、将来において「社会の不安定を生み出す問題」があるか否かを取り上げ、その対応策を探求する。あわせて、同種の問題をすでに経験しているオーストラリアの実態も調査し、日本社会で認められた問題への対応を検討する。

具体的な活動としては、日系ブラジル人移住者が集中している座間市や中国帰国者やインドシナ定住難民が急増している、横浜市泉区や大和市などをフィールドとして、今彼らにどのような問題が起きているのか、さらにはそれに対してどのような施策がとられているのかを調査する。

また、オーストラリアの共同研究者と連携し、本研究の対象と類似の構成を示すメルボルンのエスニックエリアでも同様の実態調査を行い、両者の比較を通して、日本の問題の特徴やそれへの具体的対応を探ることとする。

最後に本研究の成果をもとに、定住外国人への今後の対応についての提言を行う。

(注1) オーストラリアは多文化国家を目指し、多民族が共に生きる（共生）社会を旗印として掲げている。しかし、基本的には欧米特に英国文化を基調としていることから文化摩擦が生じている。その中で、これまでなされてきた工夫や努力は、問題解決にむけてわれわれにとって大いに参考となるところである。また、二世代目あるいは三世代目が社会に根を下ろし始めた経緯や過程も知ることができる。